

自衛隊海外出兵反対！ 天皇即位儀式反対！ 地域・職場から果敢な政治行動を組織しよう



第14号 100円 編集 「風をよむ」編集委員会
1990.10.30 発行 共産主義者同盟首都圏委員会



8月2日未明のイラク軍のクウェート侵襲に始まったガルフ・クライシスは、イラク軍とアメリカ軍の対峙、膠着状態が続く中、中東全体の地殻変動、

「中東諸国体制」の崩壊へと進みつつある。10月8日には、東エルサレムでイスラエル治安部隊がパレスチナ人22人を虐殺、これに対し国連はアメリカを含む非難決議を採択した。またガザ地区を始めイスラエル占領地域全体で、パレスチナ人のインテリゲンチアが急速に盛り上がりつつある。さらにエジプト国会議長の暗殺、シリア軍、レバノン政府軍による反政府派の制圧、レバノン内戦の一応の終結など中東情勢は極めて流動的な局面に入った。

米帝は、イラクの侵襲直後からベトナム戦争以来といわれる大部隊をサウジ・アラビアを中心とした湾岸地域に急派、10月中旬にはその兵力25万人を越える。米軍はイラク侵襲の臨戦態勢を固めるとともに、サウジ油田地帯を事実上の占領した。日本政府は、この軍事介入を全面的に支持し、8月末には「中東貢献策」として10億ドルの軍事資金援助を決定した。さらに重要なことは、この機に乗じて自衛隊の派兵をもくろんでいることである。10月16日より始まった臨時国会に政府は「国連平和協力法案」を提出、

結び付くこと知らなければならぬ。このことをぬきにして、一〇・八エルサレムにおけるパレスチナ人虐殺に示されるような、イスラエルの圧政の下でインテリゲンチアに決起する被占領地パレスチナ人民がフセイン支持を叫ぶ理由を理解することはできない。求められているのは近代帝国主義支配の総決算であり、崩れ行く戦後国際秩序の再建には現実性も正当性もない。

海外出兵と天皇元首化——戦後政治の総決算を許すな
なりふりかまわず「天皇即位儀式」とアラブへの自衛隊派遣の強行しようとする、日帝支配階級の狙いが、戦後政治の総決算を遂行しようとするもの

「湾岸危機」は我々に何を語っているか
米帝を先頭とする「多国籍軍」のアラブ地域への展開が、石油資源の確保にあることは、ますます明白になりつつある。確実に地球環境の取り返しのつかない破壊をもたらすにもかかわらず、エネルギー消費の拡大に歯止めをかけることのできない資本主義的世界体制は、それゆえに有限であることが明らかで可採年数さえカウントされている石油資源の安定確保に必死になつていく。だがアラブ地域は砂漠と油田があるだけではない。我々はそこに生活する人々を忘れてはならない。イラク・フセイン政権によって引き起こされたクウェート侵襲を正当化することとはできないが、同時にイスラ

自衛隊海外派兵——平和協力法案」粉砕の大衆行動を

「中東諸国体制」の崩壊へと進みつつある。10月8日には、東エルサレムでイスラエル治安部隊がパレスチナ人22人を虐殺、これに対し国連はアメリカを含む非難決議を採択した。またガザ地区を始めイスラエル占領地域全体で、パレスチナ人のインテリゲンチアが急速に盛り上がりつつある。さらにエジプト国会議長の暗殺、シリア軍、レバノン政府軍による反政府派の制圧、レバノン内戦の一応の終結など中東情勢は極めて流動的な局面に入った。

中東への自衛隊派兵を強行しようとしている。一九五〇年八月朝鮮戦争のさな警察予備隊として発足した自衛隊は、40年を経た今、再び侵略の軍隊として派兵されようとしている。我々は総力をあげてこの自衛隊の中東派兵、平和協力法案を粉砕すべく、闘いの構築を訴える。

「海外派兵」「集団的自衛権」の骨子は、①目的——国際的平和及び安全の維持のための国連決議を受けた国連平和協力法を制定し、海外派兵の実施体制を整備する。②やむを得ない場合の自衛隊の派遣、③暫定政府の行政事務、選挙への協力、医療、復旧活動、物資協力にかかわる物品の輸送などとする。④自衛隊の参加を編成する。⑤自衛隊の参加して参加、平和協力隊員及び自衛隊員の身分を併せ持つ。

「海外派兵」「集団的自衛権」の骨子は、①目的——国際的平和及び安全の維持のための国連決議を受けた国連平和協力法を制定し、海外派兵の実施体制を整備する。②やむを得ない場合の自衛隊の派遣、③暫定政府の行政事務、選挙への協力、医療、復旧活動、物資協力にかかわる物品の輸送などとする。④自衛隊の参加を編成する。⑤自衛隊の参加して参加、平和協力隊員及び自衛隊員の身分を併せ持つ。

「海外派兵」「集団的自衛権」の骨子は、①目的——国際的平和及び安全の維持のための国連決議を受けた国連平和協力法を制定し、海外派兵の実施体制を整備する。②やむを得ない場合の自衛隊の派遣、③暫定政府の行政事務、選挙への協力、医療、復旧活動、物資協力にかかわる物品の輸送などとする。④自衛隊の参加を編成する。⑤自衛隊の参加して参加、平和協力隊員及び自衛隊員の身分を併せ持つ。

「海外派兵」「集団的自衛権」の骨子は、①目的——国際的平和及び安全の維持のための国連決議を受けた国連平和協力法を制定し、海外派兵の実施体制を整備する。②やむを得ない場合の自衛隊の派遣、③暫定政府の行政事務、選挙への協力、医療、復旧活動、物資協力にかかわる物品の輸送などとする。④自衛隊の参加を編成する。⑤自衛隊の参加して参加、平和協力隊員及び自衛隊員の身分を併せ持つ。

「国連平和協方法」反対！ 多極帝国主義のアラブへの軍事介入反対！ 闘うアラブ人民との連帯！
☆「即位の礼・大嘗祭」反対！ 天皇主義的国民統合攻撃反対！ 人民の政治的オルタナティブの形成を！
強力で大衆的な政治行動が要求されている。我々は当面する、自衛隊海外出兵と天皇即位儀式に反対する政治闘争を、全ての同志・友人のみならずが全力で組織することを訴える。事態は緊急重大である。この時期に日帝支配階級が「国連平和協方法」制定策動に踏み切ったことは決して偶然ではない。昨年からの「天皇代替り儀式」を国家行事として執り行うことにより、戦後象徴天皇制の実質を転換して事実上の国家元首化を進めるとともに、今度は米帝の要求を口実として、海外出兵を強行するというのだ。これは憲法九条に象徴される戦後日本の政治支配秩序の全面的再編に外ならない。九〇年代の安保闘争は、我々の予測をこえるスピードでやっていた。ヒロヒトの死と「湾岸危機」とを利用して、戦後体制の正面突破を狙い、ヤルタ体制崩壊以後の多極帝国主義同盟における、覇権参入をもちろむ日帝の野望を阻み、プロレタリアート人民の政治的オルタナティブ形成のてがかりをつかみとろう。我々自身のために、未来の世代の人々のためにも、歴史的

政治選択に、悔いを残してはならない。
エルを含むこの地域における国境秩序の形成が戦後帝国主義世界秩序の確立に等しいこと

を、従ってアラブ人民の帝国主義に反対する要求が現行の民族国家の枠組そのものを見直しに

あり、ヤルタ体制崩壊後の多極化する帝国主義的世界権威に参入しようとするものであることは明らかである。すでにアジア人民からの不信が表明され、米帝からも沖縄海兵隊司令官スタンク・ポールの「ビンのフタ」発言がなされるなど、その軍事

問題はいかにしてこの政治闘争を組織するかというところにある。我々の考えるよりも今日の事態についての人々の関心は極めて高い。だが戦後的な既成革新運動の枠組からは今日の支配階級の攻撃を打ち破る力は生まれてこない。護憲を内容とし、社会を政治代表とし、労組を主体とする戦後の反戦平和運動は、その社会基盤そのものの喪失によってその根拠を失いつつある。街頭政治闘争を基調と

する新左翼も戦後革新の左派としての地位に止まる限りにおいては同じである。旧い政治の枠組は疲労し切っているにもかかわらず、これに替る新たな政治主体のありようは未だ明らかでない。事態を打開するカギは「新しい社会運動」の領域を基礎とし、ここから政治闘争を組織する回路を形成することができると否にかかっている。地域・職場における議会政治のチ

ヤンセルから直接行動まで、既成政治の枠組を超えたいとあきらむる手段が試されて良い。プロレタリアート人民の政治的オルタナティブをめざして全力で闘おう。



「自衛隊海外派兵」反対の集まりの様子

緊急行動
11月3日「国連平和協方法」反対行動/午後一時/日比谷野音
政治日程
11月12日 対全国集会/代々木公園/共闘だ！共同行動
22・23日 「大嘗祭」反対行動
12月8・9日 フォーラム90s 国会フォーラム/明治大学和泉校舎

民衆の攻撃対象となる事態は十分にありうることであり、今派兵を許すということは、そうした場合の自衛隊派兵の突破口をつくることになる。いわば経済的ヘゲモニーに軍事力を加え、極めて反動的な地域的覇権を行使しようというのである。こうした海外派兵、軍事大國化に対し、すでに政府の側が戦後の認識から、その水準は別としても抜け出ているとき、従来の一国的平和主義から憲法論議に終始したのでは勝ち目はないだろう。問われているのは覇権的な世界システムにかかわるオルタナティブであり、とりあえずそれは、①パレスチナ人民のインテリゲンチアを始め、闘うアラブ人民との連帯 ②一つの国家の他国への武力行使の拒否 ③これと関連して、国外での日本資産、日本人の安全について、一切の武力行使しないという原則の確立 などを踏まえ、自衛隊の海外派兵、平和協力法案粉砕の闘いを構築することである。

報告者はイスミール・アルカイデー駐日イラク大使館全権公使、富岡倍雄・神奈川大学教授、三木亘・慶大教授、藤田進・東大教授の四人。ほかにPLO日本代表部へのインタビューも資料として配布された。報告の後、会場からの質問にもよく質疑応答が行われたが、関心がイラク全権公使に集中したのは無理からぬところ。「侵襲の理由」「イラク兵による暴行事件の報道」「イラク軍撤退の可能性」などについての質問が出されたが、これへの回答が「公式見解」の繰り返しかなかつたことに、怒りの声も上がった。とはいえイラク・アラブの側から日本の行動がどう見えているのかを、具体的に知る機会となつたのも確かではないか。

「中東にヒト・モノ・カネを送るな」10・7集会
東京・防衛庁ウラの榎町公園で本年六月の「反安保シンポ」

「即位の礼・大嘗祭」に反対する10・10全国集会

二月二日「即位の礼」、二二三日「大嘗祭」を前に控えて、秋らしい好天に恵まれた10月10日、「ゴメンだ！共同行動」の主催する集会が、東京、芝公園でおこなわれ、およそ八〇〇人の人々が参加した。またこの日から「ゴメンだ！共同行動」が準備してきた「さよなら天皇全国キャラバン」がスタートした。またこれと平行して、首都圏における「山の手に一周キャラバン」も計画されている。各参加団体の発言の後、集会参加者は「全国キャラバン」のテーマソング（「ちびまるこちゃん」のエンディングテーマ「踊るポンポコリン」の替え歌で、これがなかなか出来が良い）を流しながら、常盤橋公園までのデモに出発した。

日帝支配階級による天皇主義的国民統合攻撃と、これに抗して天皇制の廃絶をめざし、国家主義に反対して民主主義と人権の拡張を要求する多くの人々の闘いは、一月に向かつて極めて重要な局面に入っている。

政府・宮内庁はアキヒトの即位儀式を総て「国事行為」ないしは「皇室の公的行事」とし、八億円の国費を支出し、文字どおり湯水のようにカネをつぎこんで天皇制賛美・翼賛を強要しようとしている。また八月一日から二月上旬まで警察力をフルに動員して首都圏を中心とする警戒厳令とも言えるべき警備体制（二〇月二日）都心で一万五千人、一〇月二日二万六千人、一月六日三万二千人を敷き、人民のこれへの反対の行動を力づくで抑え込もうとしている。さらに政府は、「即位の礼」当日、官公庁に「日の丸」掲揚を義務付けるとともに、地方自治体、学校、民間にも掲揚を求め、これを決定した。これを受けて文部省は、公立学校に対する事務次官通達を出すこととした。この狙いが国内に向けては激化する階級矛盾の融和と国家主義、排外主義的政治動員にあり、国外に向けては日本帝国主義の国威発揚と、とりわけアジア人民に対する帝国主義的再支配の野望をむきたしにした示威行為にあることは明らかである。



第二次山東出兵を連想する

「草の根保守」、民間反革命勢力の活動も具体化してきている。三月八日、神社本庁や「日本を守る国民会議」などによって「天皇陛下御即位祝賀委員会」（会長／日商會頭石川六郎）が結成され、これと連動して一〇月時点で三都道府県で「奉祝会」が結成されたという。また各地方自治体への「奉祝行事」の強要を目的とする「全国キャラバン」も行われている。この連中は、一〇月二九日に「民間奉祝中央委員会」、一月一七日に「民間奉祝パレード」を行うことを決定している。（即位儀式を参照されたい。）

こうした反動の嵐に抗する、地域・職場からの人民の反撃を全力で準備しよう。

主な即位儀式・翼賛行事の日程

- 10月29日 *民間奉祝中央委員会
- 11月12日 *即位の礼／皇居／天皇、皇后がそれぞれ高御座（タカミクラ）、御帳台（ミチヨウダイ）に登り王位の継承を宣言し、居並ぶ三権の長（総理大臣、衆参両院議長、最高裁長官）を代表して、総理大臣が陛下としての忠誠を誓う。
- 23日 *大嘗祭当日／皇居／主基殿供饗（スキデンキョウセン）の儀
- 24日 *大嘗祭第一日の儀／皇居
- 25日 *大嘗祭第二日の儀／皇居
- 11月17日 *民間奉祝パレード／都内ホテル
- 18日 *一般参賀／皇居
- 20日 *大嘗祭／皇居／二日間で宗教的儀式が続く
- 22日 *大嘗祭当日／皇居／悠紀殿供饗（ユキデンキョウセン）の儀

反入管運動から

入管問題と移民史、民衆交流史

（その2）

（前号からつづく）

入管資格制度を軸に入管体制を分析・批判するという活動を、入管研究活動としてやってこれた。60年、70年代の入管法反対闘争、その後の坂中論文批判の活動、80年代の入管二法改正反対闘争等、理論的な批判活動を継続して、言わば20年位、入管体制批判を行ってきたわけですね。その活動を支える視点というところで、民族問題をどう考えるかとか、人の移動についてどう捉えるかというところで、様々な理論的アプローチを取り入れてきたと聞いています。例えば、社会主義と民族問題であるとか、宮本常一の民俗学であるとか、社会史であるとかを受け入れながら、旧来のマルクス・レーニン主義的な接近では解けない問題に迫るというところをやった。

外国人労働者問題と移民史

中村 手短かにすか（笑）。一つは、現在の外国人労働者の日本への流入の問題がある。これは第三世界と先進国の問題と云えるが、また圧倒的に貧しくて、環境難民という言葉もあるが、人口流出している国をええなという問題がある。これは従来の中村の視点では捉え切れなかった新しい状況だと思ふ。

これは何もアジアに特有の問題ではなくて、戦前の日本もそうだった。戦前の日本というよりも、海外移民を出した日本のそれぞれの地域を見ればわかるが、移民は一つは、食いつめて、貧窮の中で出ていったと言われるが、現在の外国人労働者を見てもわかるが、その国でもっとも優秀な部分が出てくる。日本の場合もそうで、初期のハワイ移民等を見てもわかるけれど、その国でもっとも優秀な部分が出てくる。こういう移民史的な観点から見ることが出来る。83年の入管研の夏合宿で、人口圧論争というところをやったことがあり、山口県の大島郡、大島という島だけで一郡が形成されている地域だが、そこで海外出稼ぎがかなり行われる。それが社会的な要因か、人口圧かというところがあるが、人口圧は、人口圧要因がかなり大きいだろうと主張した。その人口を支える絶対的な生産力があると思う。その絶対的な生産力を超えた部分については、例えば徳川時代の東北地方は開墾という形で処理された。しかし、西日本では、開墾は行われなかった。生まれた子供は育てようというところがあった。そういう人たちがどんどん出稼に出ていく。江戸中期、狭い島の中でどんどん人口が増えて

遇しているわけです。そういう一つの流れというものは、どこか一緒になるんだと思う。私自身は宮本常一に影響を受けてきたけれども、運動としてもそういう時代に入ってきたと思う。我々の問題視点は、何も侵略・被侵略という史観だけでなく、民衆の交流という史観も必要だろうと思う。

理論的課題としての民衆交流史

最後に、この間の活動と理論的な蓄積を生かしながら、今後どのように活動を進めていくのか、その構想をお聞きしたいと思います。

中村 一つは、外国人労働者問題がクローズアップされてから、我が国が非常に少なかった、というところがあると思う。自分たちの活動の比重を理論活動に移してきたが、今、よりそれが必要になってきていると感じている。これまで書きためてきたものを、これからの10年は出版活動を展開したいと思っている。先ほど言った、民衆交流の視点をもう少し深めていきたいと考えている。また、社会主義と民族の問題についても、最近はずいぶんペレストロイカの中で、いろいろな形で民族問題が出てきているが、我々も、在日朝鮮人問題から広がって、チベット問題等に問題意識を広げていった。民族をどう定義するかということも、現在起こっている事態をどう受け入れていくのかというところがポイントだと思ふ。様々な民族問題はあるが、日本の場合で言えば、在日朝鮮人問題が代表的なのだが、侵略・被侵略の告発や差別糾弾だけでは、新しい問題、展開は期待できない。我々としては、在日朝鮮人という問題ではなくて、少数民族問題とかを問題視点に入れてきている。また個人的なロマンの対象でもあるけれど、チベットとかモンゴルとかにひかれるところがある。その辺での理論作業もやってみたい。

（6月26日 文責・編集部「風をよむ」発行の遅れにより、本インタビューの公表も遅れました。深くお詫びします。）



「成田は違憲の巢、二期工事糾弾 直せ成田空港」9・30三里塚現地集会

三里塚闘争の発展のために様々な試みが行われてきたが、今回は集いに先立って、二三日「三里塚の土地収用を許さない首都圏行動」の人々によって、映画祭「ドキュメンタリーシネマの三里塚」が行われ、さらに集会前日の二十九日にはプレイベントとして、東峰共同出荷場において「三日間戦争」上映と反対同盟との交流会が行われた。

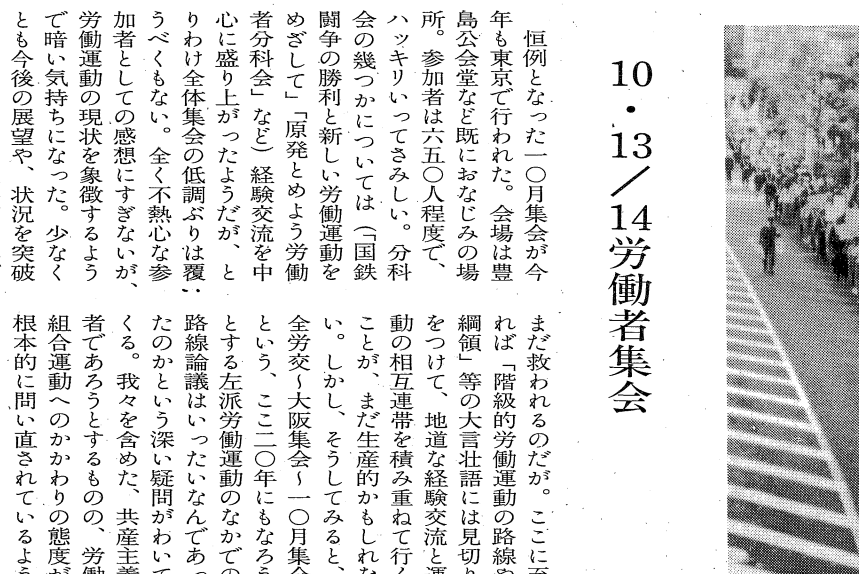
当日は、台風の接近に伴う大雨。結集は五〇〇人程度。初めて現地集会に参加したのではなにかと思ふような若い人、子供連れなどには、全くの毒でした。集会は同連盟事務局長の石毛博道さんが行い、開会宣言を堀越昭平さん、同盟としての挨拶を四人の代表の中から石井武さんが行った。続いて用地内から熱田さん、小川源さんが決意表明。三・二六闘争で逮捕され、二年ぶりに出獄した和多田象夫さんの挨拶、反対同盟顧問弁護士の成田治安法

10・13/14労働者集会

恒例となった一〇月集会在今年も東京で行われた。会場は豊島公会堂など既におなじみの場所。参加者は六五〇人程度で、ハッキリとさみしい。分科会の幾つかについては、「国鉄闘争の勝利と新しい労働運動をめざして」「原発とめよう労働者分科会」など、経験交流を中心に盛り上がったようだが、とりわけ全体集会の低調ぶりは覆うべくもない。全く不熱心な参加者としての感想にすぎないが、労働運動の現状を象徴するよう暗い気持ちになった。少なくとも今後の展望や、状況を突破するための積極的提言があれば

「風をよむ」発行の遅れにより

（6月26日 文責・編集部「風をよむ」発行の遅れにより、本インタビューの公表も遅れました。深くお詫びします。）



10・13/14労働者集会

恒例となった一〇月集会在今年も東京で行われた。会場は豊島公会堂など既におなじみの場所。参加者は六五〇人程度で、ハッキリとさみしい。分科会の幾つかについては、「国鉄闘争の勝利と新しい労働運動をめざして」「原発とめよう労働者分科会」など、経験交流を中心に盛り上がったようだが、とりわけ全体集会の低調ぶりは覆うべくもない。全く不熱心な参加者としての感想にすぎないが、労働運動の現状を象徴するよう暗い気持ちになった。少なくとも今後の展望や、状況を突破するための積極的提言があれば

「成田は違憲の巢、二期工事糾弾 直せ成田空港」9・30三里塚現地集会

三里塚闘争の発展のために様々な試みが行われてきたが、今回は集いに先立って、二三日「三里塚の土地収用を許さない首都圏行動」の人々によって、映画祭「ドキュメンタリーシネマの三里塚」が行われ、さらに集会前日の二十九日にはプレイベントとして、東峰共同出荷場において「三日間戦争」上映と反対同盟との交流会が行われた。

当日は、台風の接近に伴う大雨。結集は五〇〇人程度。初めて現地集会に参加したのではなにかと思ふような若い人、子供連れなどには、全くの毒でした。集会は同連盟事務局長の石毛博道さんが行い、開会宣言を堀越昭平さん、同盟としての挨拶を四人の代表の中から石井武さんが行った。続いて用地内から熱田さん、小川源さんが決意表明。三・二六闘争で逮捕され、二年ぶりに出獄した和多田象夫さんの挨拶、反対同盟顧問弁護士の成田治安法

10・13/14労働者集会

恒例となった一〇月集会在今年も東京で行われた。会場は豊島公会堂など既におなじみの場所。参加者は六五〇人程度で、ハッキリとさみしい。分科会の幾つかについては、「国鉄闘争の勝利と新しい労働運動をめざして」「原発とめよう労働者分科会」など、経験交流を中心に盛り上がったようだが、とりわけ全体集会の低調ぶりは覆うべくもない。全く不熱心な参加者としての感想にすぎないが、労働運動の現状を象徴するよう暗い気持ちになった。少なくとも今後の展望や、状況を突破するための積極的提言があれば